

2019年6月16日

2019年6月定例自然観察会報告

3班 森 恵子

1. 概要

- ・日時 2019年6月8日(土) 9時30分～15時
- ・天候 曇りのち晴れ
- ・テーマ 再度公園の裏道を歩く
- ・コース 阪急バス停水源池→鍋蓋北道→再度公園→仙人谷→阪急バス停水源池
- ・参加者 ビジター9名 会員25名(内3班スタッフ16名)
(自主研修会 6月1日(土) 参加会員数38名)
- ・配布資料 ルートマップ 植生リスト 神戸層群資料
- ・説明リーダー ①久保 ②武川 ③佐藤 ④中島 ⑤田中(悦)
神戸層群説明 南場

2. 観察記録

そろそろ梅雨入りの季節になり、前日は雨。当日は、曇りで一時雨雲がかかる予報。肌寒いくらいの気温で、天気が気になる。見晴らしがよくなった再度山(470m)に登る予定であったが、急な坂道もあるため安全を考慮し取りやめることとした。

水源池バス停近くの神戸養蜂場のご好意により、店舗前の駐車場を集合場所にさせていただく。参加者は少なかったが、少人数のグループでゆったりと観察を楽しむことにする。

出発してしばらくは車道に行く。さっそくコガクウツギ、スイカズラ、コックバネウツギなどの花が迎えてくれた。ウグイスカグラの赤い実も見られる。つる性のスイカズラは、花の色が白から黄色に変わることからキンギンカとも言われる。同じように白い花が黄色に変わるヒョウタンボクも見られ、こちらはキンギンボクとも言われている。花は終わり2個の実が合着したヒョウタンのような小さい実をつけていた。この辺りは植栽されたものや逸出してきたものも多く、キウイが茂っている。実がなるのか気になるころだ。「卯の花のにおう垣根にほととぎす早も来啼きて・・・」と歌われるウツギも枝いっぱい白い花を咲かせている。ネジキの白い釣鐘状の花を見たあとは樹皮のねじれも観察、クリの雄花の匂いを嗅いだり、黄色い花を咲かせているコナスビをルーペで観察したりしながら進んでいく。「ポポッポポッ」とツツドリが鳴いている。ケヤキにはマイマイガの幼虫(毛虫)が見られた。コアジサイは繊細なレースのような小さな花を枝先にたくさんつけ、いい香りがする。両性花だけで装飾花はない。雄蕊の軸が長くて青い。コガクウツギは、大きな装飾花がよく目立つ。ムラサキシキブとヤブムラサキもあちこちで見られ、手触りの違いを確かめる。そろそろ花の時期を迎えているようだ。ガンピもヤブムラサキと同じようにビロードのような手触りで淡黄色の花が咲き始めていた。

桑の木工房の手前で、花崗岩と神戸層群が断層で接する露頭を見ながら神戸層群について説明する。六甲山の花崗岩ができたのは約7000万年前で、神戸層群は、日本列島がまだ大陸の一部であった約3500万年前に堆積した地層。はるか遠い時代にしばし思いを巡らせ、足元の地面に見入る。

キキョウソウ、オカトラノオ、アオハダなどを観察して山道に入る。あちこちにコアジサイが咲いている。ウラギンツルグミ、タムシバ、つぼみのような花をつけたゴンズイなどが見られた。コバノガマズミ、ミヤマガマズミも葉の感触を確かめる。きれいに巻かれたオトシブミのゆりかごがあった。辺りが開けてくると右手に大師堂。弘法大師が唐へ渡る際、旅の安全を祈願し、帰国後再びこの地で修法したことが「再度山」「修法ヶ原」の地名の由来とされている。

再度公園の広場で昼食後、アカマツの木を見上げることから午後はスタート。マツに寄生しているマツグミを観察する。修法ヶ原池の対岸に木々に覆われた再度山が見える。もともとの照葉樹林が乱伐により荒廃していたが、明治35年から緑化事業が始まり今の姿になったようだ。ここからは池の外周路を行く。アカガシの落ち葉は茶色くしっかきりしてなかなか分解しそうにない。他の落葉樹の落ち葉とは足触りが違う。ビジターの方は、コウヤボウキの本年枝と前年枝で葉の形が違い3年目にはその枝は株を残して枯れるなどの説明を興味深そうに聞いておられた。カツラ、ヤマボウシ、イタチハギ、ネムノキ・・・と池沿いに見ていく。この池で、カワセミが水面にダイビングして魚を捕らえるのを見たグループもあった。マルバアオダモはまるで花のような実をつけている。「幻の花」と言われていたシチダンカが植えられている一画もあるが、シーボルトのシチダンカと同じものかどうかは疑問だそうだ。ハコネウツギや濃い紅色のヤブウツギの花が咲いている。キアシドクガの幼虫に葉をすべて食べられてしまったクマノミズキがあったが、葉は再び芽吹くそうでなかなかたくましい。車道沿いでは、ミヤマナルコユリが見られた。

外人墓道を過ぎ、仙人谷入口でシソバタツナミを観察する。紫の唇形の花が浮世絵の波のように見えるのに見入る。イソノキの小さな花も咲き始めており、キツリフネ、ノギランなどの花はまだ少し先のような。ここで、アサギマダラに出会えたグループも。いつのころからか青空ものぞき、すっかりいい天気になっていた。ウグイスの鳴き声がずっと聞こえていた。

タンナサワフタギ、ウメモドキ、ツルウメモドキ、ウワミズザクラなどが見られる車道を変電所前へ向かい、到着したグループから順次解散した。必要に応じてバス停まで案内して、無事終了できた。

ビジターの方は「自然の中でゆっくり過ごせた」「じっくり説明が聞けてよかった」「植物のことはもちろん地質や歴史などいろいろな説明が楽しかった」と自然観察を満喫された様子。少人数のグループだったので、ビジターの興味に合わせた説明ができ、一人ひとりがじっくりと五感を使って観察できたのではないかと思う。

(観察会風景)



(当日観察した花や実)



コックバネウツギに残る萼片

ウツギ



ヒヨウタンボクの実

コアジサイ



シソバタツナミ



ヤマボウシ

以上